

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-B-4		更新日	2025/2/20	
サイト名		島根半島浦々を愛したラフカディオ・ハーンと妻セツが暮らした居宅～小泉八雲旧居				
基本情報	区分	☒ 有形 ☐ 無形 ☐ その他				
	所在地	松江市北堀町				
	指定別	「小泉八雲旧居」国指定				
	種別	史跡名勝天然記念物				
	指定／登録年月日	1940(昭和15)年8月30日				
	管理団体／モニタリング	松江市				
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(台)				
	留意点					
サイトの解説	歴史・文化	アイルランド人作家ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が、1891(明治24)年6月から11月まで、約5か月間居住し、「自分の住まいが少々気に入りすぎた」と著作に記した屋敷。敷地面積は1,003㎡。 母屋は、江戸時代後期の建築と推定される松江藩士・根岸家の武家屋敷。木造平家、切妻造、瓦葺で面積は158.36㎡。 母屋を取り囲む三方の庭の風景や動植物の魅力について、ハーンは「日本の庭」(『知られぬ日本の面影』所収)につぶさに描き、樹木に霊性をみとめ、あらゆる自然を受け入れ、自然との共生をめざす日本人の自然観やライフスタイルに大いに共感している。 なお庭は、この屋敷の所有者であった根岸小石の手により、明治初年頃に造られた。小石の孫で、ハーンの教え子でもある根岸磐井は、上田敏、小山内薫、柳田国男らの勧めで、ハーンが愛した旧居保存のために、1923(大正2)年に松江に帰り、一部改築されていた家や、手を加えられた庭を元通りに復元した。その後今日まで当時の面影を残しながら保存されている。1940(昭和15)年、建造物や庭を含む屋敷全体が国の史跡に指定された。 地質学にも関心が深かったハーンは、島根県尋常中学校の実践的な地質学の授業を讃え、海からみた島根半島のジオ的記述(「潜戸」「日御碕」など)を残しているほか、1891(明治24)年2月に布志名で発生した地滑りの報道(「ジャナパン・ウィークリー・メール」)、「津波」という言葉の世界への発信(「生き神」)なども行っている。 ラフカディオ・ハーンは、安政南海地震の大津波のエピソードを「生き神-A Living God」で物語にし、その中で津波(Tsunami)という言葉をはじめて西洋世界に紹介した。宍道湖の落日、松江城、加賀潜戸、美保関青石畳通り、日御碕海岸などを著書「知られぬ日本の面影」の中で、詩情豊かに、幻想的に語っている。				
	地形・地質、生物・生態等	小泉八雲旧居や武家屋敷のある塩見縄手は、人工的に整地された所である。松江城のある亀田山と北側にある赤山の110mの間には松江層の砂岩よりなる宇賀山とよばれた低い大地があった。この宇賀山を開削して北田川と塩見縄手をつくった。塩見と縄手はそれぞれ松江藩家老の「塩見小兵衛」の名前と細く延びた一本道通に由来するとされている。(河原荘一郎, 2018, 松江市史講座「松江城をめぐる諸問題と今後の展望」パネルディスカッション資料)				
写真・図等						
		小泉八雲旧居正面入口		小泉八雲旧居正面入口(遠景)		
参考文献						